

平成 28 年度 第 1 回 SSH 運営指導委員会議事録

1. 日 時 平成 28 年 5 月 25 日(水)14:30～16:00

2. 場 所 北杜市立甲陵中・高等学校 立志の間

3. 出席者 運営指導委員 6 名、北杜市教育委員会 3 名、本校関係職員

4. 次 第

(1)開会

(2)北杜市立甲陵高等学校 学校長あいさつ

(3)学校関係者紹介

(4)北杜市立甲陵中・高等学校についての説明

(5)SSH 運営指導委員会設置要綱の説明

(6)委員長及び副委員長の選任

(運営指導委員会設置要綱第5条の規定により、委員の互選で選任)

(7)議事

(運営指導委員会設置要綱第6条の規定により、委員長がその会議の議長となる)

1.平成 27 年度事業報告

担当より説明

2.平成 28 年度事業計画

担当より説明

3.その他

担当より説明

4.質疑・応答、指導・助言

議長:

研究テーマの選定が最初の問題。文系にもサイエンスの要素が入っている。もう少し広く考えたら豊かな発想ができるのでは。

委員:テーマ選びは卒業生の結果が閲覧できると非常に良いと思う。過去の研究を見て疑問を感じることもある。同じテーマで新しい角度からのアプローチや、それをふまえて、ということができると積み重ねになり5年間かけたというメリットも出てくると思う。

委員:大学でも卒論のテーマなどは前の研究論文を見せ、参考にするように勧めることもある。

委員:教員側からのテーマ提示があっても良い。そこから興味がわいてくれば儲けもの。有期の一定期間の研究であり、時間の制限があるのでテーマ選定へ指導が入らざるを得ないことは仕方ない部分でもある。

委員:インドの報告は大変興味深い。教育について、日本の学生は「教育は受けるもの」、インドの学生は「教育は奪い取るもの」だと思っているだろう。受け身で学習する日本の生徒に対して、何が何でも学習していこうとするインドのハングリーな子どもたちとの相違は顕著に表れたのではないだろうか。

委員:評価を目に見える数値で出すことは、教育では難しいところがある。SSH の目的は、優れた人材を養成し輩出することにある。卒業後、大学での生活にどのように活かされているのかを調べてみるのも良いのでは。

委員:SSH は理科系への進学が減っている問題から文科省が考えて打ち出したプロジェクトだが、科学的に判断できる国民というのが基本にある。子どもたちの科学的思考力を高めているということだと思う。

委員:サイエンスは事実をつきつめるために、仮説に対して実証していく。これは、理系でも文系でもアプローチは一緒。そういう意味では、研究論文は文系が多いが、高校生にはよくできている。教育でできたとしたなら、成果だと思う。

委員:ここまでの評価は、学校の特色といえる田舎にある 6 年制の市立の学校である点や自然に恵まれている点を活かしサイエンスで物事を考えられる生徒を何らかの方法で育てることで SSH をやっている、で良いと思う。指導方法についても、5 年間回して指導育成方法も確立してきたし、生徒の育成と指導方法がスパイラルアップして成果が出ているということではないか。

議長:その他の意見がなければ、今日の議事はこれで終わりとする。

(8)閉会